



シカによる農作物被害対策



令和8年度農作物鳥獣被害防止対策研修
畜産研究部門 鳥獣害対策グループ
竹内正彦

自己紹介

- 鳥獣害対策研究（2003年～、イノシシ対策）
 - 今、血が流れている現場が初任地 > 研究だけでなく応急措置が必要
 - 研究開発、技術の実証、普及 >> 生産者は高齢者が規定路線
県、市町の指導、啓発、現場で必要なことを受け取り改良や次の開発へ



鳥獣害とは

野生動物と人間のあつれき

- 農作物被害
 - 自然分布の拡大（復活）
 - 自然生態系への被害
- 農地、施設の損壊 「経済損失」
- 宅地・集落侵入、出会い 「不安」
- 交通事故（高速道路）
- 人的被害 「今日はシカの話」

今日お話ししたいのは

- シカを知る < 敵を知る >
 - 生態や行動習性などを正しく理解しよう
 - シカの農作物被害の実際
 - シカが増える理由とは
 - 被害はなぜ拡大するのか
 - 動物の食、住と人慣れから考える
 - 農家・住民、狩猟者、行政等
- 人ができることはなにか

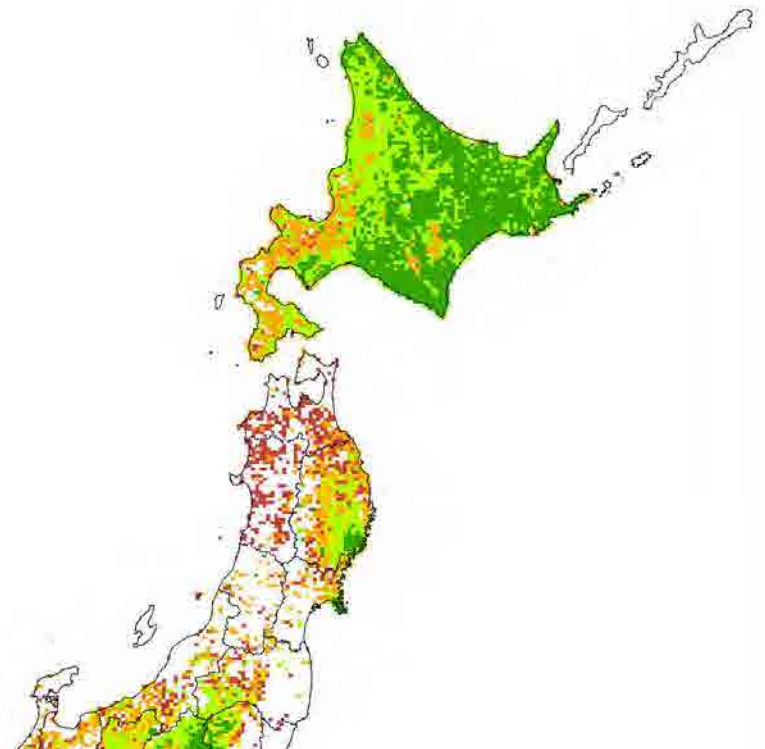


まずはシカの生態から知りましょう。

ニホンジカの分布（北海道・東北） （環境省HPより）

ニホンジカ分布域

- 1978年度調査で生息を確認
- 2003年度調査で新たに生息を確認
- 2011年度調査で新たに生息を確認
- 2014年度調査で新たに生息を確認
- 2020年度調査で新たに生息を確認

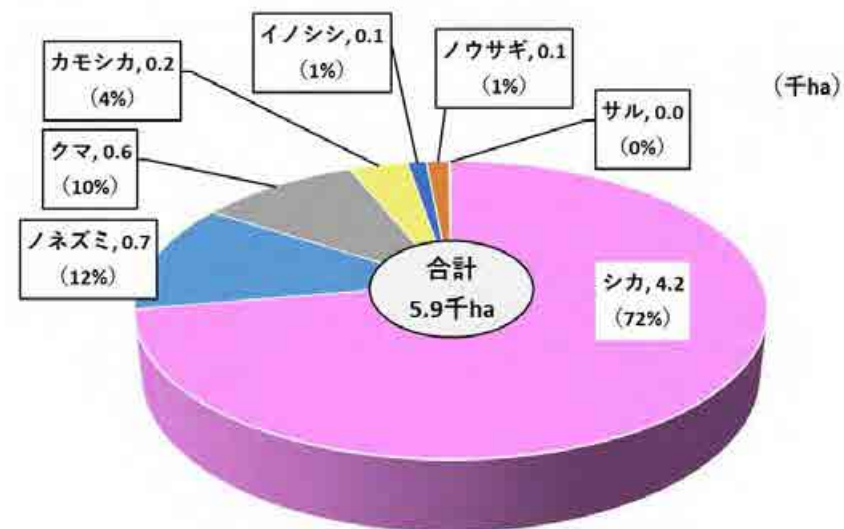


ニホンジカの農林業被害

- **シカが林業被害のトップ**になったのは1989年度から
被害は枝葉への食害と剥皮→下グラフ（2018年度）



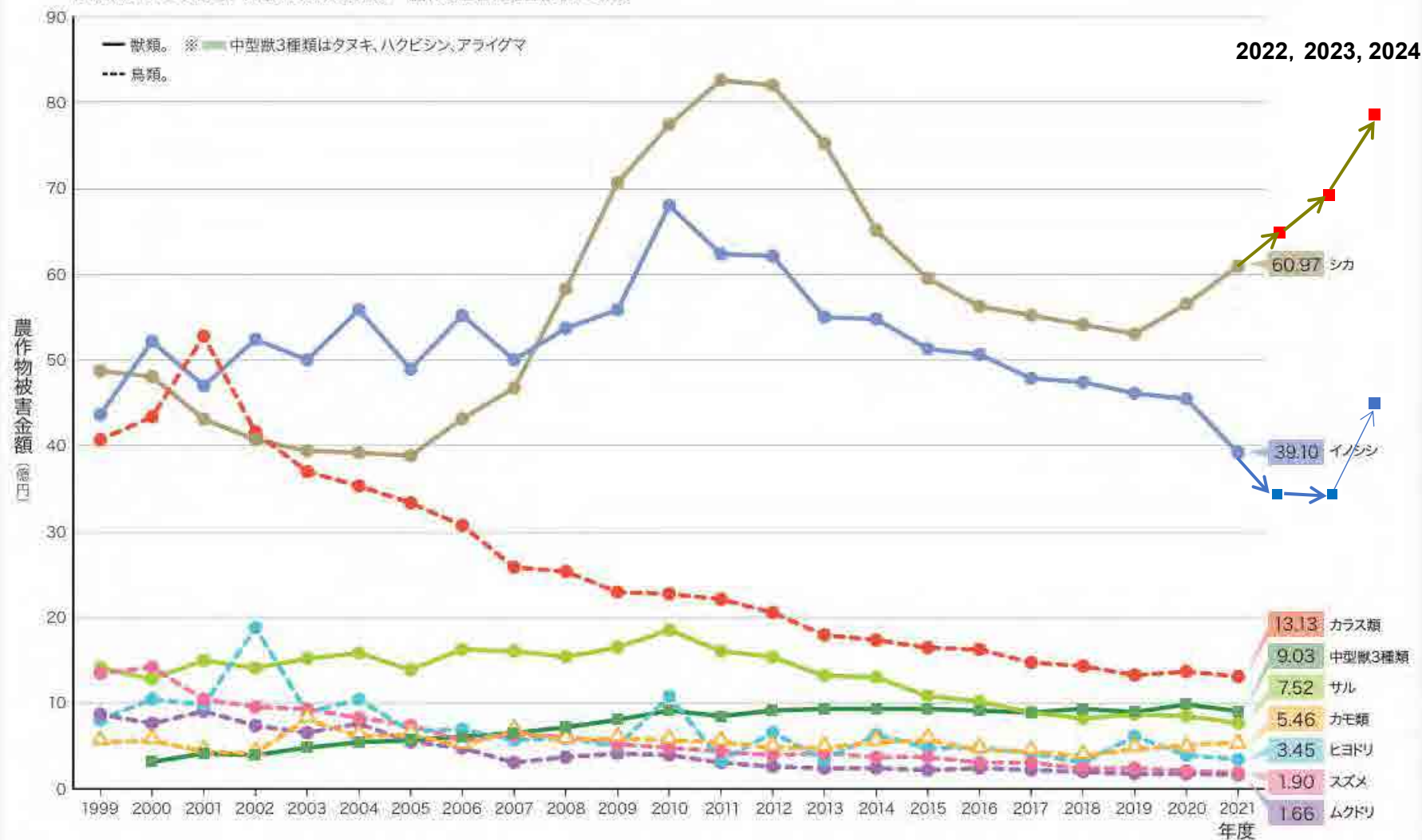
スギへの剥皮害(滋賀県)



民有林、国有林の被害面積
林野庁HPより

- 林業被害 > 農業被害 の時代が続いていたが、
農業被害額が増大する。

鳥獣種による農作物被害額の推移 農林水産省の調査結果より作成



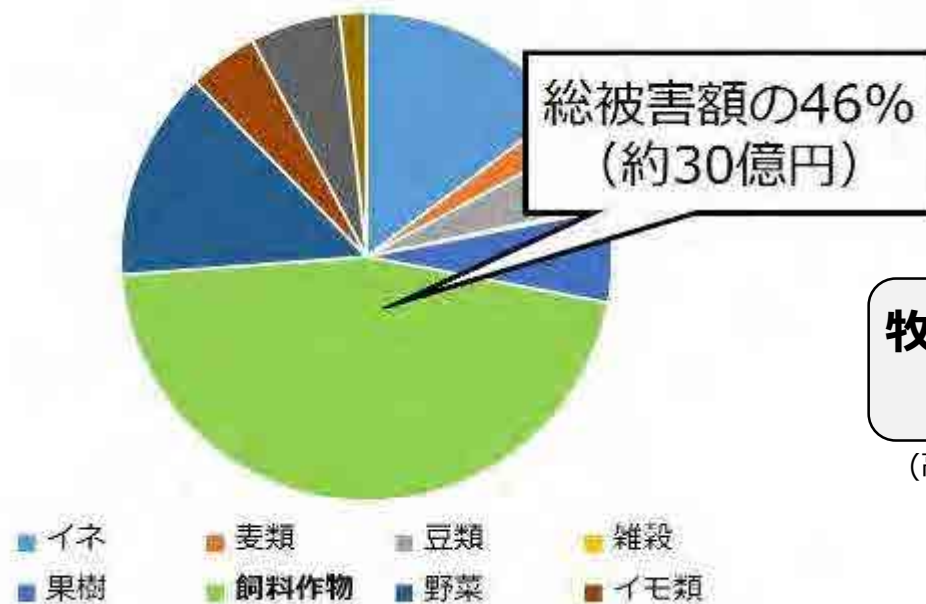
今号の特集では 農研機構 畜産研究部門 動物行動管理研究領域 動物行動管理グループ の研究を紹介します。

ニホンジカによる農作物被害

鳥獣害全体で2008年度以降シカによる被害額が最上位

牧草をはじめとする飼料作物の被害大 (農林水産省 2014)

シカによる農業被害額 (H26, 2014) 65億円



※(農林水産省 2014)を基に作成

シカによる農業被害額 (R6, 2024) 79億円
イネ21%、野菜17%、飼料作32%(約26億円)
麦、豆、果樹、イモ、工芸作が各5%



牧草は高栄養かつ
採食効率高

(高槻 2001)



それゆえに
牧草への執着高

(写真は12月に撮影)

ニホンジカによる農作物被害



- シカの林業被害＝全国で7千ha、内8割がシカによる枝葉への食害と剥皮(R2, 2020)
- シカの農業被害55億、全体の33％で獣類最大
- 同70億、全体の43％で獣類最大(R5, 2023)
- **シカの飼料作物被害**が25.7億、**最大の鳥獣害**品目
- 被害量では325.6千t（シカ被害の68％）
被害面積 28.8千ha（同 80％）
- **被害の中心は北海道**＝593.8千ha作付の4.4％
（本州以南での被害＝391.3千haの0.06％）
- 本州の被害は気にとめる程ではないという扱い
- この被害は山間地に造成した牧草地に発生
- **本州の分布の拡大、被害発生の火元は山間牧草地とも**

山地の牧場では鳥獣害が常態化



調査地

(公財) 神津牧場

群馬県下仁田町

標高：850-1350m

総面積：387ha

(そのうち、牧草地は約100ha)

2007-2010年の

シカの牧草盗食による年間被害額は
飼料購入換算で1,146-1,759万円

→年間牧草総生産量の約3割(塚田 2012)

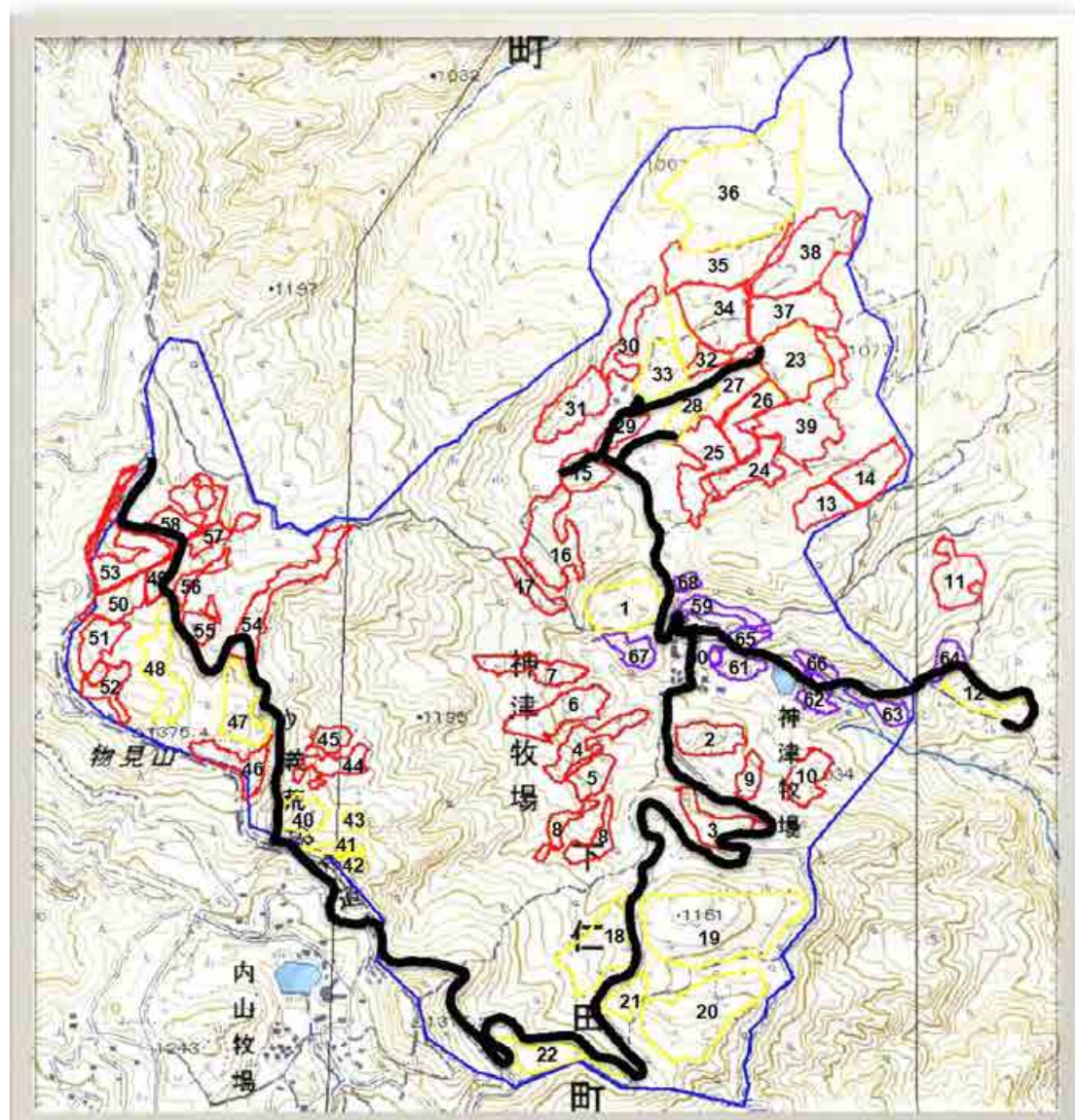


牧草地での個体数調査



- シカの出現数をモニタリングする
「ライトセンサス」調査
- 日没後 1 時間後から、自動車で20km/h以下の速度でゆっくり走りながら、車窓から手持ちのスポット **ライトを照らして動物を探す** 調査

神津牧場の調査ルート、調査牧草地の位置図



調査ルート長は6.6km、
対象牧草地等は45区域、
約2時間の調査を毎月
3晩行う (竹内ら 2020)

スポットライトに照らされた牧草地で採食するシカ



シカによる牧草地被害対策の現状

牧草地は大面積であり資材コスト大
山間地、傾斜地にあり設置労力也大

牧場は低コストでの飼料生産が至上命題
防護柵資材の低コスト、設置・管理労力の軽減を要望

牧場での防護柵等など被害対策技術は進展しつつあるが
(Vercauteren *et al.* 2009; 塚田 2015,2016)、

対策の有効性（継続性）の実地検証が不足



電気柵設置牧草地へのシカ侵入による被害



防護柵外側からの食害、掘り起こし
と潜り込みによる柵内草地への食害



防護柵内へ侵入され、局所
的な食害により地面が露出
した草地

積雪期のシカ被害も発生



積雪時のアース不良による電圧低下
でシカが侵入し、草地に被害発生

掘り返し、雪下の新芽を食害



今日お話ししたいのは

- シカを知る < 敵を知る >
 - 生態や行動習性などを正しく理解しよう
 - シカの農作物被害の実際
 - シカが増える理由とは
- 被害はなぜ拡大するのか
 - 動物の食、住と人慣れから考える
 - 農家・住民、狩猟者、行政等
人ができることはなにか

まず必要なのは、正しい現状認識です。

鳥獣害が起こる理由、シカが増える理由

野生鳥獣の進出

- ・ 生きるために常に餌を探している。
- ・ 作物は最高の餌で引きつけられる。

執着

野生鳥獣はなぜ増えた

- ・ 温暖化が理由？九州には成り立たず
- ・ 50万人いた猟師が半減、高齢化した
シカの捕獲数は1.3万から67.5万頭に増加（1975年対2020年）

矛盾がある

栄養豊富な餌を農地、牧草地で食べられるとしたら
→ 若くから産みと仔が死なず、自分も長生きできる。

動物はなぜ加害するのか

- ・ 生きていくには
- ・ 動物は**慣れる**

衣

食べること

住みかが必要

隙をうかがっている。

こちらがなにもしなければ来て良いと言っているのと同じこと。

被害と 食べる 住みか 慣れる の関係

被害を減らすにはどうするか

集落での野生動物の餌は2種類

食べると怒られる餌



食べても怒られない餌



どちらも食べさせてはいけない。

集落に野生鳥獣を引き寄せる原因

集落、里山で、餌やりをしている



- 柿、栗などの放任果樹の実
- 未収穫物、残さは誘因される上、高栄養な餌そのもの
- 家庭菜園で集落の味を覚えさせる
- 秋の（不適切な）草刈による、冬期の畦、水田の雑草でさえも、立派なごちそう

食べる 住みか 慣れる

被害を減らすために
まずは心構えをしてください

慣らさないために

・警戒心を利用する

柵、無意識の餌やり減

・食べさせない

(電気柵の痛みは学習し、警戒させる)

草管理、隠れられない

・安心して住めない

(狩猟は警戒させる効果も持っている)

「生きやすい」を「生きにくい」に

鳥獣害とは

野生動物と人間のあつれき

動物を慣れさせない。

その対策は人間が行動を変えることで可能
それが早くて有効な鳥獣害対策になります。

受け身な被害者意識ではなく、
動物を困らせてやろうとする気持ちが鍵です。

今日覚えていって欲しいこと

動物が生きていくための食住を管理する

食べさせない

電気柵、金網柵を張る

安心して住めない

草管理で隠れ家と餌を奪う

慣れさせない

警戒心を起こさせる

まずは心構えをしてください。

「自ら、直ちに」が最も効果的です。

できる対策を見つけ、みんなで始めましょう。